

# 懸賞論文・文芸作品コンクール

## 文芸鳳賞に前田さん

### 3年連続大賞受賞

学生部主催の2018年度懸賞論文・文芸作品コンクールの授賞式が12月4日、生田キャンパスで行われた。文芸作品部門の最優秀賞に当たる鳳賞に前田萌香さん(文芸3)が、柘植光彦文学賞に内田里奈さん(文芸3)が選ばれた。懸賞論文部門は鳳賞の該当者はなかった。

本年度は論文部門に8作品、文芸部門に27作品の応募があり、両部門で14人が入賞した。入賞作品は作品集として3月に刊行される。

文芸部門審査委員長の小林恭二文学部教授は「前田さんの作品はクラシカルで文芸性が強かったが、作風が変化し現代女性の闇を見事に書き表した」と評した。また、内田さんは戯曲として初めての入賞となった。

論文部門審査委員長の濱松純司文学部教授は「活字離れの中、応募してくれた諸君に感謝したい。提出前に見直したらもっとよい論文になる」と講評した。

前田さんは文芸部門で2年次に鳳賞、3年次に柘植光彦文学賞を受賞し、3年連続の大賞受賞となった。今作『かわいそうなんかじゃない』は女子大学生が主人公。高校時代の同級生と再会し、誘われるまま同窓会に参加、そこで意外な事実を知ることになる。1万字余りを「がむしゃらに書いた」と振り返る。

### 柘植賞 内田さん

#### 劇団で創作に励む

柘植光彦文学賞の内田さんは小山内伸ゼミで演劇研究に励む。たたら劇団を立ち上げ、創作に打ち込んでいる。同ゼミが昨夏に行った劇上演でも、脚本と演出を担当し

5作を書き上げた。2年次で鳳賞を受賞したときと比べ、「一文一文に気を使って書くようになった」と語る。

「3月刊行の作品集に掲載される、先生方の講評を読むのが楽しみ」とほほ笑む。その講評を励みに、今後も書くことを続けていくつもりだ。



授賞式で賞状を受け取る前田さん

## 文・野口ゼミの3人 手作り「香りの本」 絵本コンクール入選



日本語を母語としない人や障がいのある人たちが楽しんで「読む」ことが

ができる本づくりに挑戦している文学部人文・ジャナリズム学科の野口武悟ゼミの3人が、手作りで『香りの本』を制作。静岡文化芸術大学主催の「ユニバーサルデザイン絵本コンクール2018」の一般部門佳作に選ばれた。

本を制作したのは、城リノさん、丹羽雅子さん、樋口彩夏さんでいずれも4年次生。「視覚に障がいのある人も存分に楽しめる香りの本を作りたい」(城さん)と、バラ、レモン、ラベンダーなど香り豊かな身近な植物6種を美しいイラストで紹介し、香りのエッセンスカードを付けた。文章は、「カモミールのかわりをかぐと、きんちょうがほぐれます。頭がいたい時には、いたみがや



左から野口教授、丹羽さん、樋口さん、城さん

わらぎます」などと、和文と点字で表現した。城さんがデザインと構成を考えた。点字を担当したのは丹羽さん。「ルールを覚えるのが大変で

## 商・高橋義仁ゼミ有志 ベトナムで研修

寄稿 栗原 敬之(商3)

た故柘植光彦文学部教授を記念して2012年度論文・文芸作品コンクールの審査委員を長く務め(大学HPに受賞者一覧)る商学部・高橋義仁ゼミ有志12人(研修チーム代表山口里沙さん3年次、ゼミ長青木真美さん同)は、2018年9月8日から12日までの5日間、ベトナムのハノイで海外研修を行った。

今回の海外研修の特徴は、訪問先の決定から依頼、研修内容、運営に至るまでのほとんどを学生自らが工夫して行ったことだ。約半年間にわたり準備した上で現地へと向かい、リキ日本語学校、技能実習生の送り出し機



笑顔のゼミ生とリキ日本語学校の生徒

所、吉中精工、イオンロビンソン店を訪れた。

今回の研修で一番印象に残ったのは2日目に訪問したリキ日本語学校だ。ここでは、日本語を学ぶ現地の生徒に対し、私たちが日本の文化や生活について発表し、そのあと日本から持参したみそ汁とそうめんを振る舞い、交流を楽しんだ。私たちは事前準備から日本語を

時間を過ごすことができた。

企業訪問では、実際に現場で働いている方々からさまざまな話を伺った。今回の研修で文化の違いによる企業の海外進出の難しさや、ベトナム人の日本に対する思いを知るなど、現地に行くことでしか分からない貴重な体験をすることができた。

他の参加者は次の通り。吉田翔哉(4年次)川口泰礼、松野さゆり、金井寛、長谷川暉人、平山裕香、服部小百合、南雄太、木村まりあ(以上3年次)。文中敬称略。

## ハッカソン開催 ネット情報学部

ネットワーク情報学部の「学部ハッカソン」が1月12、13の2日間にわたって、生田キャンパスで行われた。1~3年次生10人が参加し、学部でグループウェアとして利用しているビジネスチャットツール「direct」の改善案を考え、設計と提案を行った。

ハッカソンは参加者が技術やアイデアを持ち寄り、短期集中でサービスやシステムを開発。3チームに分かれ、グループウェアにあったらいいなと思う機能について意見を交わした。写真。

発表会では、「教員との交流や情報発信の場として掲示板機能を追加」「時間割など、必要な情報が一目で分かるデザイン」などのアイデアが発表された。企業の方からは「どんな場面を使うのか考える」とよりよいアイデアになる」などのアドバイスがあった。

石井大輝さん(1年次)は「先輩たちからいろいろな考え方を聞くことができ、とても参考になった」と話した。

## 地域通貨による コミュニティ・ドック

地域通貨とは、一定の地域やコミュニティでしか流通しない通貨をあえて導入することで、域内経済を活性化し、相互扶助やつながりを強めてコミュニティを豊かにしようという社会実験である。

日本でも今世紀初頭にブームが来たが、地域通貨というツールを助成金目当てでただ導入するだけでは長続きしなかった。人間は長年身につけた価値観や慣れ親しんだ

